

☆沖縄の出来事は日本の縮図です

― 国の姿と本土の無関心 ―

いま沖縄の辺野古、高江で起こっていること

- ◆ いま辺野古では政府が沖縄県民の意志を無視し、抵抗運動を押さえ込んで普天間基地の辺野古への移設に向けて工事を日々進めています。
- ◆ 一方、沖縄北部ヤンバルの森、高江では自然を破壊し、オスプレイのためのヘリパッド工事が進んでいます。今まで平穏に農業で暮らしていた人たちは、その騒音の為に子供を疎開さえしているのです。
- ◆ そして、さらに許しがたいのは、沖縄平和運動センターの山城博治議長を軽微な容疑であるにもかかわらず、四ヶ月以上も拘束し続けている事です。これにはもはや人道問題であり国際人権擁護団体アムネスティ・インターナショナルも山城氏の釈放を政府に求めています。

国の姿（政府の姿）

- ◆ かつての政権党は自民党でも民主党（当時）でも、まだ「アメリカさん、なんとかありませんか」という姿勢がありました。
- ◆ しかし、今の政権党は、そのような姿勢は全くありません。翁長知事は何度もアメリカに行っては「なんとかありませんか」、東京に行っては「辺野古以外に何とかありませんか」と訴えているのです。
- ◆ 「弱い者いじめ」、これが国の姿です。沖縄で起こっていることは日本の縮図です。

私たちはどうか？

- ◆ 一方、本土の人たちの沖縄に対する姿は「無関心」です。無関心な人たちに聞くと「自分は無関心だが、政府のように加害者ではない」という答が返ってきます。そうでしょうか？
- ◆ 四年前、沖縄の人たちが銀座で基地撤去のデモを行ったとき、翁長知事はヘイトスピーチの人たちの姿よりも、無関心な通行人の姿にショックを受けたと言っています。
- ◆ 沖縄の人たちは、本土の無関心な人たちの姿に、自分が足を踏まれているように感じています。足を踏んでいる人は踏まれている人の痛みは分からないのです。
- ◆ 弱い者をいじめている人、加害者にとって好ましいのは民衆の無関心です。無関心はファシズムの栄養源でもある事を忘れてはなりません。

二〇一七年三月十二日（日）護憲平和行進（通算601回目）

★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

平和的生存権（日本国憲法前文より）

われらは、全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。